

◎小客室アンリ・ラパン作壁画の修復

Restoration of Small guest room



図1

旧朝香宮邸の建設に際して、主要7室の装飾は両殿下の希望で、当時パリで活躍していた画家・装飾美術家アンリ・ラパンに委嘱された。その経緯の詳細は明らかではないが、基本設計ができた後1929年に委嘱されたと推測され、邸は1933年に竣工している。

7室の中で、装飾家というより画家としての仕事が最も大きな比重を占めているのが小客室であろう。部屋の壁面全体が淡い緑の色調の風景画で覆われ、庭に通じるドアの上部にH. RAPINと署名されている。制作年は記されていないが、上述のことから1930-32年頃に描かれたと推測できる。

今回主に修復したのは署名のある壁面の向い側、玄関側に窓が切られている壁面で、修復前は、左上部付近が剥がれて危険な状態で画面がひどく波打っていた。修復の目的はこの壁画を安全な状態に貼り直すという明快なものだったが、どのように進めたらいいのか、なかなか明快な解決策を見出すことができなかった。ただ、貼り直すためには一度剥がさなければ先に進めない、ということは明らかだった。通常、絵画の修復は調査から始まり、調査が終了した時、最後まで見通しが立つ。だが、今回は調査できるのは表面だけで裏側がわからないから終了までの見通しが立たず、段階ごとに計画を練り

直しながら進めざるを得なかった。最終的にはほぼ成功したが、最後まで思い悩まされたハードな仕事だった。

壁画は麻布に描かれた油彩画で、非常に薄い白系色の地塗りの上に全面にシエーナ土(Terre de Sienne Naturelle)色の背景が塗られ、緑土(Terre vert)色の濃淡を繊細な筆捌きで変えなが

ら森が描かれ、輝く水などにシルバーでアクセントを加えている。この三色だけの非常にシンプルな色面で構成され、絵具層は薄く凹凸もほとんどない。この画布が和紙で裏打ちされ、袋張りされ、板に貼られていることなどは当初からわかっていたが、剥ぎ取って見えたのは予想を超えた考え抜かれた精妙な技術だった。

まず、コンクリートの壁に約10cmの角材が縦に通ってスペースを作り、その上に格子状の構造があり、内部に細い板が7-8枚縦横交互に釘で固定されていた。良質の杉材を用いた今日では見



図2

られなくなった実に丁寧な仕事である。その上に和紙がベタ貼りされ、糞がけされ、柿渋紙で留められ、さらに袋貼りされ、再度ベタ貼り、柿渋紙があり、作品があった。さらに、作品裏面には白い白亜と思われるものが厚く塗られ、硬化していた。



図3

図1.修復前の状態

図2.修復中 作品保護の表打ちとテーブルの準備

図3.作品裏面の和紙の状態

われわれはこうした観察に多様な細かい観察を加えて、それぞれの意味を読み取り、作品が貼られたプロセスを次のように推測した。まず、ラパンはフランスで壁面の図面をもとに画布に絵を描き、窓部は切断せず、巻いて日本に送った。これをコンクリート壁面に水溶性の糊で直に上手に貼ることは難しく、その後の保管にも支障がきたすことは明白なため、板でコンクリートとの間に隙間を作り、和紙を貼ってその後の紙を貼るベースを作った。次に作品を皺がなくふわりとした感じで貼れるように、蓑のように段をつけながら和紙を水平方向に上辺の一部にだけ糊をつけて貼り重ね、それを押さえるように柿渋紙を貼った。柿渋紙は、防湿、防黴の効果があるとされる。さらに蓑がけの効果を補うため、袋貼り(四角い紙の周りにだけ糊を付ける貼り方)した。作品裏面に、水分で画布が動かないようにするため下地を塗り、柿渋紙・和紙で裏打ちした。こうして準備を整えた画布を袋貼りされた壁面に貼り、壁や窓に合わせて切断し、周りに飾り紐を取り付け、完成した。文献などによる裏付けはないが、この

ように考えると、観察から得られた情報と矛盾なく結びつく。

旧朝香宮邸は、ラパン始めアール・デコの作家たちと、家族の居住スペースを担当した権藤要吉ら日本の技師との日仏のコラボレーションによって生み出された建築とされるが、小客室のラパンの画面の裏側から読み取れたのも、ラパン絵画と日本の伝統技術とのコラボレーションであった。

修復した壁面は、高さは約3m64cm、横が約4m15cmで、中ほどに窓のスペースが開けられている一枚の画布である。丸めることも当然切断することもできないので、室外に持ち出すことはできず、作品と同寸法のテーブルを作り、表打ちで保護した作品を、画面を下にしてテーブルに置き、処置は常に小客室内で進められた。様々な制約の中で袋貼り、柿渋紙という日本の伝統的な手法を生かし、将来(遠い遠い将来であることを祈る)の修復の際に取り外すことが可能なようにしながら、無事貼り戻すことができた。(森絵画保存修復工房 森直義)



図5



図6

◆ 図4.修復中 作品裏面の古い柿渋紙の除去作業

図5.一部の板を取り外した壁面の状態

図6.新たに柿渋紙が貼られた状態



図4